

短  
信

## 大館曲げわっぱの 新デザイン

ポリテクカレッジ秋田 産業デザイン科  
(秋田職業能力開発短期大学校)

長井 崇・山崎 聖  
浅倉卓也・菅原由佳



図1 林野庁長官賞作品

### 1. はじめに

ポリテクカレッジ秋田産業デザイン科では、平成9年度から大館曲げわっぱ協同組合の依頼により、いくつかの新しい曲げわっぱ製品のデザイン提案を行ってきた。それらの共同活動により、当短大校と協同組合とのつながりは深まり、平成11年度には事業主団体研究開発事業として、大館曲げわっぱ協同組合と住居環境科、産業デザイン科により、「大館曲げわっぱにおける高齢級秋田スギの熱可塑性と新デザインの検討」に取り組むことができた。

今回「木工作品コンテスト(主催:日本木工機械協同組合)」において入賞した作品は、いずれもその事業主団体研究開発事業において提案されたものである。

### 2. 新デザインの検討

新デザインの検討では、新しさをどのようにアプローチするかという点が特に問題となった。そこで、デザインコンセプトを「気品を保ちながらも、日常で使用するカジュアルなイメージを与え、現代生活によりなじむもの」と設定した。スタイリングとし

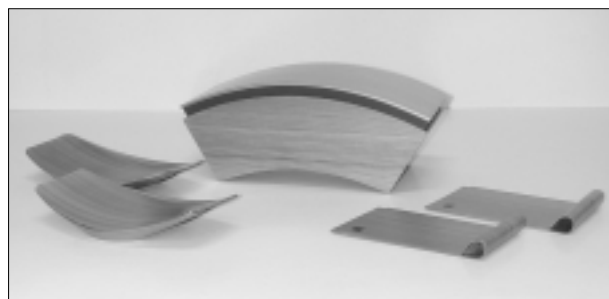


図2 日刊工業新聞社賞受賞作品

ても新鮮さを与え、新しいということを外見からもアピールできるように心がけた。

また、協同組合側から「小規模の作業場でも製作可能なあまり大きくないものにしてほしい」という意見があったため、今回は製品化しやすいということを前提に考え、現状の設備で製作が可能であり、なるべく特殊な金物等は使用しないデザインとした。

これらの条件に基づき平成11年度の事業では、「食器(皿2点)」「容器(絵手紙箱・花器)」「照明」の3種類、計5作品のデザインを行った。それぞれモデルおよび図面を製作し、協同組合の方々に試作



図3 新聞紹介記事(秋田さきがけ H12.4.11)  
秋田魁新報社提供

品製作を依頼した。試作品の製作は相互に検討し、オリジナルのデザインを保ちながらも、実際の製作に伴い改良を加えながら進行していった。

### 3. 木作品コンテストについて

木作品コンテストは日本木工機械協同組合主催、東京都共催によるコンペティションであり、今回が第1回目の開催となる。事業の計画当初においてこのようなコンペティションに出品することは予定していなかったが、製作した作品がコンテストの主旨に適合していたこともあり、今までのデザイン検討の成果を客観的に評価してもらうひとつの機会として出品することとした。作品の出品にあたり本来であれば5作品すべてを出品することが望ましいと考えられたが、花器については試作品段階の作品が実際に使用できる状態ではなかったため、今回は出品を見送ることとした。

結果として、出品した4作品すべて入賞すること

ができ、照明器具は木作品部門の最高賞である「林野庁長官賞」を、また、皿2点と絵手紙箱については3作品を合わせたかたちで「日刊工業新聞社賞」を受賞した(図1~3)。

### 4. 入賞作品の説明

今回入賞した照明器具および皿2点、絵手紙箱について説明する。

#### 照明器具

デザイン(菅原由佳・山崎聖) / 製作(福岡由光)

一見複雑な形状に見えるが、実は単純な長方形の薄い板によって構成されている照明器具。隙間から漏れる光が、壁面や天井に映し出され、神秘的な空間を演出する。

#### 皿Ver.1

デザイン(長井崇) / 製作(佐々木悌治)

小さく曲げた部分にポイントをおいたデザイン。曲げの部分を装飾として扱い、既存の曲げわっぱ製品と異なった印象を与えている。

#### 皿Ver.2

デザイン(長井崇) / 製作(栗盛俊二)

曲げを側面ではなく、平面部分に用いた食器。すべての部材が「曲がっている」ことにより、曲げものの製品であることをさらに強調している。

#### 絵手紙箱

デザイン(浅倉卓也) / 製作(柴田慶信・吉原重美)

箱の蓋と底面に曲げを用いた筆記用具をまとめるための容器。底面の曲げは、短冊箱のように機能し、葉書などを取りやすいように工夫されている。

### 5. おわりに

大館曲げわっぱに限らず日本には誇ることができるさまざまな伝統工芸産業が存在するが、大量生産された工業製品の存在に阻まれ、正当な評価を得られてないものも少なくない。今回のデザインの提案が曲げわっぱ産業に限らず、そのような伝統工芸産業活性化の糸口として注目してもらえれば幸いである。

なお、今回入賞した作品については、現在協同組合で製品化を計画している。